

令和元年度学校評価のまとめ

担当	重点目標	具体的方策	評価基準	中間評価	「評価結果と課題」
総務部	ア 生徒を中心に置いた学校と家庭の連携	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA役員・委員の方々とともにPTA行事を企画し、職員と委員以外の保護者にも参加を促す。 ・執行部会の機能の確立を図るため各種PTA会議の作業効率向上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員や保護者がPTA行事に参加することができたか。 ・各種PTA会議の作業効率向上したか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現段階では未実施である。（文化祭等で実施予定） ・執行部会の数を1回減らすことができた。各種会議も昨年より時間短縮できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭・PTA研修において、多くの保護者と職員の関わりがもてたが、生徒に対して還元できたかは不明確である。アンケートを工夫し、生徒への影響を調査していきたい。 ・執行部会は時間短縮できたが、一部会議で回数や会議時間のもち方に問題があった。今後PTA委員の人数が減少するので、開催時期や時間を工夫し、負担軽減を図りたい。
教務部	ア 授業を基本とし、家庭学習の定着を図り、基礎学力の充実及び向上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業と家庭学習が効果的に結びつくよう、適切な学習課題と学習方法を示し、家庭学習の習慣化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業と家庭学習が効果的に結びつくよう、適切な学習課題を示すことができたか。 ・家庭学習の習慣化を図ることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業中の課題一覧表を作成し、生徒に学習の意識付けを行うことができた。 ・1学期終了時の追調査該当者が多数おり、家庭学習の習慣化が図れていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業及び冬季休業期間の課題一覧表を作成し、生徒に配付し学習の意識付けを行うことができた。しかし、1学期と2学期のそれぞれの終了時ともに、学習の目標に対して到達できない追調査該当者が多数いた。来年度は、追調査該当者を減らせるように、日々の授業の中で、確実に学習の成果が出せるような指導方法の手立てや環境作りを考えていく必要がある。
生徒指導部	ア 基本的生活習慣の向上 ・挨拶の奨励 ・身だしなみ指導の充実 イ 交通事故防止の活動	<ul style="list-style-type: none"> ・場面に配慮した「元気な挨拶」を心掛ける。 ・身だしなみをはじめとする自己管理が行える取組の機会を作る。 ・外部講師を招いての講話の機会を作る。 ・学年や全校集会の機会を捉え、交通事故の防止を訴え、「かけがえのない自他の生命」の大切さを育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・8割程度の生徒が挨拶をできたか。 ・身だしなみ指導の再チェックまでに完了できたか ・交通事故が減少したか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの生徒が挨拶をしてくるようになった。習慣化できるように続けていきたい。 ・若干ではあるが再チェックで完了できる生徒が増えた。 ・例年より若干少なくなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの生徒が挨拶をしてくるようになった。習慣化やTPOに合わせた挨拶などの啓発をしていきたい。 ・再チェックで完了できる生徒が増えた。来年度は再チェックの数をもう少し減らしていきたい。 ・例年より少なくなっている。来年度は千種警察署や千種区役所と連携しながら、さらに数を減らしていきたい。

生徒会部	<p>ア 計画的に物事をすすめ、与えられた役割を責任を持って遂行する能力を育てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会執行部、文化常任委員長、体育常任委員長を中心に行事までの計画を立てる ・計画に沿って行動し、評価、改善をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の大半を生徒自身で企画・運営することができたか。 ・計画に対して8割程度達成できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事から逆算して、生徒が主体となって計画を立てることができた。毎週執行部会を開催し、計画に対して評価をして改善策を立てていくことができた。 ・計画に対して100%近い行動をとることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒自身で計画を立て、その計画に従い行事を行うことができた。 ・毎週、生徒会執行部会を開催し、今後についての課題を考え、改善策を立てていくことができた。この改善策を来年度に盛り込んでいきたい。 ・スポーツ大会は、中止になってしまったが、文化祭、体育大会とも生徒が計画し、運営することができた。
保健部	<p>ア 自発的な環境美化意識の涵養</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常の清掃活動の充実 <p>イ 健康教育の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃道具の充実を図るとともに安全点検を定期的実施する。 ・生徒美化委員会活動を検討する。 ・個別指導をとおして、自己の健康に関心をもたせ、自己管理能力の向上を図る。 ・生徒保健委員会活動を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全点検を実施したか。 ・生徒美化委員会活動を検討、実施したか。 ・個々に応じた個人指導ができたか。 ・生徒保健委員会活動が活発に行われたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全点検を計画通りに実施できた。 ・生徒美化委員による奉仕活動を実施できた。 ・個別対応ができた。 ・熱中症予防対策の放送、階段の通行矢印のテープ貼りなど積極的な活動ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・十分な清掃道具を早期に準備できなかったが、安全点検は計画どおりに実施できた。 ・秋に生徒美化委員と生徒会で校外清掃を奉仕活動として実施した。来年度も活動を計画したい。 ・生徒に即した個別対応をした。 ・生徒保健委員は年間を通して、様々な活動を着実にいった。特に熱中症予防対策の放送、階段の通行矢印のテープ貼りなど積極的な活動ができた。
図書部	<p>ア 図書館機能の更なる充実</p> <p>イ 図書委員会活動の活性化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習情報センターとして、図書資料及びソフトウェア・情報機器の更なる整備に努める。 ・生徒及び教職員の活発な図書館利用を促すとともに、豊かな人間性を育むための読書指導も行う。 ・図書委員会の活動を通じて、生徒の課題発見力・課題解決力・コミュニケーション力などを涵養する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の特性に応じた図書館メディアを選定できたか。 ・図書館オリエンテーションを実施し、図書館利用を促すことができたか。 ・読書感想文コンクールを通して、生徒の読書指導を行うことができたか。 ・図書当番や図書館だよりの作成及び図書館整備を通じて、生徒の人間力を育成できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学科及び各教科にとって必要な図書の選定を完了し、購入手続きを進めている最中である。 ・4月に1年生対象の図書館オリエンテーションを実施し、図書館利用者数は増加傾向にある。 ・読書感想文コンクールを実施し、397編の作品の中から優秀作3編を選ぶことができた。 ・生徒は図書当番などの図書館活動に積極的に参加し、協調性や責任感を養うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校にとって必要な図書を選定することができた。今後、更なる図書館メディアの充実が不可欠である。 ・生徒及び教職員の図書館利用を促すための取組を行い、その成果が出た。来年度は、魅力ある図書館行事を開催し、図書館の活性化を図りたい。 ・生徒は、図書当番や図書館便りの作成などに、概ね積極的に取り組めた。今後は、生徒がもっと主体的に取り組める図書委員会活動にしていきたい。

<p>進路指導部</p>	<p>ア 進学・就職の両立ができる指導づくり ・キャリア教育の推進</p> <p>・技術職等への就職 100人</p>	<p>・キャリア教育(夢志クエスト、インターンシップ等)の体験を通して、勤労観、職業観の形成を行う。また、自ら意欲的に学ぶことを習慣化させる。</p> <p>・職員間、上級学校、企業との連携を密にしながら、知識・見識・胆識を身に付けさせる。就職においては、技術職等へ100人の内定を目指す。</p>	<p>・勤労観、職業観の形成を行うことができたか。意欲的に学ぶことを習慣化させることができたか。</p> <p>・知識・見識・胆識を身に付けさせることができたか。また、技術職等へ100人の内定ができたか。</p>	<p>・夏休みを用いて、キャリア教育活動に積極的、意欲的に参加することができた。</p> <p>・進路ガイダンス・職場見学等を利用し、知識・見識を身に付けることができた。また、技術職より技能職(現場職)を志望する生徒が多かった。</p>	<p>・キャリア教育活動に積極的に参加することで、意欲的に学び、勤労観、職業観の形成を行うことができた。ただし、一部できていない生徒がいるため、今後とも継続して取り組んでいく必要がある。</p> <p>・技術職を目指す生徒が昨年度に比べて増加しているが、目標達成には至っていない。今後は更に多くの技術職の求人がいただけるよう、企業にも働きかけを行っていく必要がある。</p>
<p>進学部</p>	<p>ア 将来を見据えて高い進路目標の構築</p> <p>イ 3年生における進学希望の実現</p>	<p>・大学等が必要としている人材の育成に努め、進学に関する情報を生徒に提供し、興味・関心・意欲を持たせる。</p> <p>・学年と学科間の連携を深め、生徒の進路実現の関する業務を円滑に実施する。</p>	<p>・生徒の進学先に関する興味、関心が向上したか。</p> <p>・効果的な指導を行うことができたか。</p>	<p>・オープンキャンパスへの参加者数が増加するなど、一定の成果があった。</p> <p>・生徒を積極的に動かすことによって、ある程度の連携ができた。</p>	<p>・受験生の超安全志向のため、私立大学における推薦入試が難化した部分を一般入試で挽回した。よって、結果としてイ(3年生における進路の実現)に関しては成果が薄かったと思われる。ただ、本校の方向性としては間違っていないと思うので、今後も継続していきたい。</p>
<p>工務部</p>	<p>ア 資格取得の推進 ・各種検定試験の実施</p> <p>・愛知県技術顕彰、ジュニアマイスター顕彰の取得</p> <p>イ 各種競技大会・コンクールへの積極的参加</p>	<p>・各種資格試験、検定試験において効果的な指導ができるよう計画を立てる。</p> <p>・取得した資格をもとに、愛知県技術顕彰、ならびにジュニアマイスター顕彰受賞者の増加を図る。</p> <p>・総合競技大会をはじめとした競技大会やコンクール参加への啓発活動を行い、大会上位入賞を目指す。</p>	<p>・各種資格試験・検定試験の効果的な指導ができたか。</p> <p>・愛知県技術顕彰やジュニアマイスター顕彰の推進を図ることができたか。</p> <p>・競技大会等の参加の啓発を行い、生徒が成果をあげることができたか。</p>	<p>・朝学習の計画を立て、検定試験に向けた取組を行うことができた。</p> <p>・資格を多く取得している生徒がいるため、各学年と連携し、顕彰取得の推進を継続していく。</p> <p>・総合競技大会や若年者ものづくり競技大会において、多くの生徒が入賞することができた。</p>	<p>・資格・検定試験の取組によって愛知県高等学校職業教育技術顕彰の取得者が増加した。</p> <p>・学科と連携を取り、確実な資格のデータ管理について工夫することが課題となる。</p> <p>・資格・検定試験の紹介と、各学科の資格取得モデルプランについて学科と連携して充実した内容を作成し、生徒へ伝えていく必要がある。</p>
<p>高大連携・広報部</p>	<p>ア 好奇心、挑戦意欲、コミュニケーション力、礼儀を身に付けるために高大連携授業を実施。</p> <p>イ タイムリーに情報発信し、趣向をこらした「情報モジュール」を構築。</p>	<p>・Web 会議アプリを活用し、SDGs(持続可能な開発目標)について、高大のそれぞれの視点から課題を見つけ出し、議論する。</p> <p>・学校内の行事や資格取得、表彰披露等はその日のうちにホームページでシェアする。</p>	<p>・SDGs 推進指導者研修に参加し、ESD の教育手法を研究できたか。SDGs を通して高大連携につながる活動を行うことができたか。</p> <p>・ホームページに生徒の活躍、学校の取組等を積極的に発信できたか。</p>	<p>・他校の教員と研修を通じて学びあい、本校の生徒に課題提起できる準備ができた。</p> <p>・ESD 授業を計画している段階である。部活動からはじめていき、校内、校外へとつなげていきたい。</p> <p>・SNS を活用し、学校行事などを積極的に発信することができた。</p>	<p>・愛知県ユネスコスクール交流会に参加し、他校の生徒のポスターセッションでの質疑や、愛知教育大学のワークショップ「SDGsを達成するまちづくり」を通して、ESD 活動を行った。課題としては、校内のネットワーク環境がまだ整っておらず、Web ミーティングによる大学との意見交換が難しいことがあげられる。</p> <p>・生徒の活躍や学校行事の内容をタイムリーにホームページで発信することができた。課題としては、各学科や部活動からの資料提供が少ないことである。</p>

1 年 生	<p>ア 基本的な生活習慣の確立。</p> <p>イ 進路目標の明確化ときっかけづくり。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 朝学、挨拶、清掃をしっかり取り組むように指導する。 HRや夢志クエストを通じて、将来の夢、目標を具体的にたせるように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝学への取組がよいか。 自分から挨拶ができるか。 学習環境を整えるように清掃や整理整頓ができるか。 大人への第一歩である意識が向上したか。 自分の将来についての道筋を具体的に考えられるか。 	<ul style="list-style-type: none"> 多くの生徒が朝学を通して資格取得のために積極的に取り組むことができた。 挨拶に関しては、まだまだ自分からの意識が足りない。また、学習環境の整備も継続する必要がある。 夢志クエストや選科により、将来について考えるきっかけは得られたが、具体的に動く生徒がまだまだ少ないため、今後促していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝学では、資格取得や基礎学力の向上に積極的取り組み姿勢が見られたが、結果が伴わない生徒もいた。実施するだけでなく、理解するまで繰り返すように指導していきたい。 挨拶に関しては、少しずつ習慣はついた。今後は身近な先生だけではなく、外部の方々にも当たり前のように呼び掛けたい。 所属学科が決まったことで、進路目標をもとうとする生徒が増えた。今後、これを具現化させられるように指導していきたい。
2 年 生	<p>ア 基本的な生活習慣の定着</p> <p>イ キャリア教育の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1期生の進路結果を生かし、生徒目線で適切なアドバイスを行い、具体的な進路の選択肢が決まるように促す。 海外修学旅行も3年目を迎えるので、計画的に準備を進め、実施前後においてクラス、学年での発表などを行い、グローバルな人材の育成などに寄与する。 	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻、欠席者数が少ないか。 朝学への取組がよいか。 面談、保護者会などを行い、進路実現に寄与しているか。 役割分担を行い、計画的に活動を行っているか。 クラス活動などを活発に行っているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 特定の生徒が休むケースが目立つ。未然防止の観点で、早期に面談、保護者との連絡をとり対応していきたい。 教員及び生徒の役割分担を行い、年間計画に沿って活動を行っている。学年全体でも協力者も多く概ね順調に進んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の生活習慣の改善などを含め、大きな変化は見られなかった。担任を含め関係各所と連絡を取りながら、適切な対応を行ってきた。来年度は、年度当初にLTの時間などを活用し、よりきめ細やかな対応を行ってきたい。 生徒アンケートの実施、進路指導を自主的に進めるなど、生徒の状況把握、進路指導を積極的に行うことができた。
3 年 生	<p>ア チャレンジ精神、向上心の醸成</p> <p>イ 試練・困難に対して最後までやり抜く生徒の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学年集会やSTを活用して、目標を高くもち、努力をすることの大切さを伝える。 具体的な進路目標を立てやすくするため、進路指導部や各学科との連携を密にする。 生徒が継続して努力できるように、学年全体で見守れる環境づくりをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年会と進路指導部が連携し、組織的に進路指導ができたか。 生徒が進路目標に向かって努力しようとする意識は高まったか。 	<ul style="list-style-type: none"> 就職指導については進路指導部と連携を密に取り組むことができたが、進学指導にはまだまだ改善の余地が多い。 授業以外にも学習に取り組み、努力をしている生徒の姿が多く見られた。年度末までしっかりと指導を継続する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 就職指導については学科や進路指導部と連携し、生徒の進路実現に向けて努力させることができた。進学指導においても、推薦やAO入試対策において学科の協力を得つつ、効果的な指導が成されるように修正した。一般入試にチャレンジする生徒の学力向上に向けて早めに取り組むことが今後の課題である。 就職が早く決まった生徒の中にはモチベーションが落ち、継続して努力できない生徒が散見される。就職後に必要とされる能力を意識させ、最後まで全力で学校生活を送れるように指導しなくてはならない。

機械系学科	ア 学力・社会人基礎力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト、スピーチ、面談の実施など、きめ細かな指導に取り組む。また、加工の段取りについて、新たなシヨップを起こし実践的に学ばせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年生の実習において、機械加工の手順や理論を実践的に学ばせることができたか。 社会人基礎力について、振り返りやスピーチに取り組ませることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 機械加工の手順や理論を体験的に学ぶシヨップを作り、実践的に学ばせることができています。 社会人基礎力について、現在までの振り返りをさせることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 「フライス盤加工」に関して実践的に学ばせることができた。今後は、課題の難易度について精査する必要がある。 生徒への社会人基礎力に関するアンケート調査では、生徒自身も成長を感じているとの回答が多かった。今後は、生徒の意識がさらに向上できるように取組を行っていきたい。
	イ 生徒の希望進路の実現	<ul style="list-style-type: none"> 個人面談等を定期的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業後等を利用して面談を実施し、生徒の希望進路の実現に向けて取り組むことができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 機械系学科の職員全員で面談を実施し、生徒の希望進路の実現に向けて取組ができています。 	<ul style="list-style-type: none"> 面談を実施することで、生徒は希望する進路実現ができた。今後は、面談内容を精査し、生徒の勤労観・職業観もさらに広がる指導をしていきたい。
電気系学科	ア 自ら考え、行動する能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 学科の掲示板に実習、座学や進路の情報を掲示し、自ら情報を集め、どのように行動したら良いかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が掲示板を確認するように指導ができたか。掲示物の管理を確実に行ったか。 	<ul style="list-style-type: none"> 連絡事項を掲示板に掲示し、生徒に確認したかどうかを聞いた。確認していない生徒には確認するように指導した。 	<ul style="list-style-type: none"> 学科の掲示板の利用について、大多数の生徒は自ら情報を収集し、意欲的に行動することができた。
	イ 進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> クラフトマンやインターンシップに参加し、実践的な技術や知識を学ぶ。自分が目指す上級学校について調べさせる。(2年生) 適切な時期に情報提供し、個別相談を充実させる。(3年生) 	<ul style="list-style-type: none"> 参加生徒に対して、事前指導を行い、参加する意義を伝えたか。 事後指導で、どのような技術や知識を学び、これからどう生かすか考えさせたか。 進路実現に合わせた指導を実施することで、生徒の進路への意識は高まったか。 	<ul style="list-style-type: none"> 参加生徒へ事前指導を行い、参加する意義を伝えることができた。 事後指導では、報告書を書かせ、報告書の内容を生徒と確認し、この体験をどのように生かせるか考えさせることができた。 希望する就職先への進路決定ができた。不採用になった生徒への適切な指導ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 参加生徒に報告書を書かせ、報告書の内容を生徒と確認することを継続し、この体験をどのように生かせるかを更に考えさせたい 希望する就職先への進路決定ができた。不採用になった生徒への適切な指導もできた。 進学者への希望に対して進路実現ができた生徒もいるが、実現させることができなかった生徒への今後の対応が課題である。
建設科	ア 工業教育の強化	<ul style="list-style-type: none"> 1年選科決定後に、官庁や大学・学会と連携して、建設業界についての興味・関心を高める。 2年インターンシップや3年課題研究を充実させ、知識・技術の習得とコミュニケーション能力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部機関との連携により、生徒の意識に変化をもたらせたか。 発表会等の実施により、生徒のコミュニケーション能力の向上が見られたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 大学教授による出前授業を2年生の修学旅行期間に計画中である。 インターンシップ発表会では、生徒の自主性による司会や、発表者だけでなく聴衆生徒との積極的な質疑応答が行われた。 	<ul style="list-style-type: none"> 出前授業では、今年度3年生が愛知県の工業高校生として初めての合格を果たした国家資格について話をいただき、生徒の資格取得の意識向上に役立った。 課題研究発表会は1年生を聴衆として実施した。発表者は初学者に分かりやすくプレゼンテーションをすることを意識し、発表者・聴衆ともにコミュニケーション能力の向上につながったことが確認できた。
	イ 進学・就職の両立ができる学科づくり	<ul style="list-style-type: none"> 建設技術部と連携し、工業高校の特質を活かした大学進学や公務員・企業への進路指導体制を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動との連携や、学科教員間の協力が進み、進学・就職へ向けた指導体制が整えられたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動による大学オープンキャンパスや現場見学会が企画・実施された。 	<ul style="list-style-type: none"> 就職については全員が第一希望の実現を果たした。一方、進学については進路指導部や学年会との連携指導体制に課題を残す結果となった。

<p>応用化学科</p>	<p>ア 地域や保護者から信頼される魅力ある学科づくり</p> <p>イ 進路実現に向けた指導体制の確立</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会との関わりをもてる行事などへの積極的な参加を通して、生徒の意識やコミュニケーション能力の向上へとつなげる。 ・基礎・基本の指導を徹底し、目標に向けた具体的なアドバイス等を早くから実施することで、生徒個人の進路実現への意識の高揚を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人として必要とされる基本的習慣を身に付けることができたか。 ・対外行事への参加などを通して、生徒の意識やコミュニケーション能力は向上したか。 ・個々の生徒の進路実現に合わせた指導を実施することで、生徒の進路への意識は高まったか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップに参加するなど積極的に取り組む姿勢が向上した。ただ、コミュニケーションをとるのが苦手な生徒には、個々にアプローチの必要がある。 ・新規に募集のあった企業へは、訪問するなどの対策が必要だった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・堀川エコロボットコンテストや専門高校生及び近隣の大学での論文発表、技能プラザなど、多くの対外行事への参加を通して、生徒の学ぶ意識やコミュニケーション能力の向上につなげることができた。 ・各生徒の進路実現に向け、学科の教員が積極的に関わり、進路実現に結び付けることができた。また、急遽進路変更を希望する生徒に対してのサポートを今後充実させる必要がある。
<p>デザイン工学科</p>	<p>ア 進路指導の充実</p> <p>イ 企業連携の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生より授業や面談を通して進路実現を意識させ、早い段階で目標を設定し、努力を方向性に合わせて集中できるような環境を作る。進学では進路指導部と連携し、大学紹介やオープンキャンパスを通して情報を充実させた上で国公立を視野に入れた目標を設定できるよう指導する。 ・合格レベルに達するための実技指導を充実させる。 ・企業との連携を密にし、最新のものづくり、デザイナーの現状を学習することで生徒に明確な目標設定のきっかけを与えると同時に、教員のための現職教育の場としても活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生は、提供された情報をもとに方向性を定めることができたか。2年生は、具体的な対策をもとに実力を身に付けることができたか。3年生は、進路実現に向け自主的に取り組むことができたか。 ・実技指導の充実は図れたか。 ・教員の教材研究の充実が図れたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生は、進路希望調査を実施し生徒の方向性を確かめることができた。2年生は、地域産業専門講座を通してスキルの向上を図ることができた。3年生は、就職希望者への面接指導を徹底し、全員第一志望で内定をもらうことができた。進学希望者に対してはこれから実施する。 ・朝デッサン補習を月1回7日間に増やし、スキル向上を図ることができた。 ・地域産業専門講座、椛山女学園・星が丘テラスとの連携制作を通して一定の成果を上げることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1、2年生ともに、実技補習、面談、企業との連携教育を通して、将来の目標を設定しつつ努力する姿勢を身に付けさせることができたと思われる。3年生の進路指導も一定の成果を上げている。進学指導、特に国公立大学を目指す生徒の意識づくりと、スキルアップが今後の課題となる。実技補習の一層の充実と、予備校、画塾との連携なども視野に入れ、強化を図りたい。 ・校外学習、出前授業を通して、教員のスキルアップを図ることができた。